

第14回日本皮膚科心身医学会を 開催して

(2024年1月28日)

※JPタワー ナゴヤ ホール&カンファレンスでの現地開催およびオンデマンド配信

山北 高志

藤田医科大学皮膚科学講師

はじめに

第14回日本皮膚科心身医学会を2024年1月28日に名古屋で開催いたしました。2年前に埼玉で行われた第12回日本皮膚科心身医学会中の理事会で本会の会長を拝命しました。そのときはまだCOVID-19が蔓延しており、ハイブリッド開催での会議でした。本学会もハイブリッド開催での準備をしていましたが、2023年5月にCOVID-19感染症が第5類感染症に移行したため、直前に現地開催に変更し、当日来場できない先生に対してはオンデマンド配信を追加しました(図1)。準備の段階で多くの変更をして会員の先生にご迷惑をおかけしま

したが、現地参加とオンデマンド配信視聴の人数を合わせると、およそ140人のご登録をいただきました。100名のキャパシティを有する会場がほぼ満員となり、活発な討論が行われました(図2)。

皮膚科心身医学会とは

1987年に故 岡部俊一先生が皮膚科心身医学研究会を創設され、年に1回研究会が開かれました。その研究会を前身に、2011年1月30日に日本皮膚科心身医学会が創設されました。本学会では患者さんの診療のみならず、皮膚科心身医学の研究や教育にも力を注いでいます。第1回日本皮膚科心身医学



第14回 皮膚科心身医学会

働く人のための皮膚科心身症

会期 | 2024年1/28日

会場 | JPタワー ナゴヤ ホール
&カンファレンス JPTOWER NAGOYA HALL
& CONFERENCE
〒450-6303 愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 KITTE名古屋 3階

会長 | 山北 高志 (藤田医科大学医学部皮膚科学講座)

事務局 / 藤田医科大学医学部皮膚科学講座 | 運営事務局 / 株式会社永大企画
〒461-0011 愛知県名古屋市中村区白鰐1-45 白鰐ビル4階
TEL:052-880-0121 FAX:052-880-0390 E-mail:jpsd14@eidai-d.jp

図1 大会ホームページ

会は現理事長である羽白 誠先生(はしろクリニック)が会長となって大阪で開催されました。その後も年に1回理事の先生が会長となって学会の開催を続け発展してきております。また、日本皮膚科学会総会でも皮膚科心身医学に関する教育講演が企画され、一般皮膚科医の先生に対しても臨床現場で難渋する皮膚科心身症の診断・治療について普及を行っています。



図2 会場の様子

学会のテーマ

今回のテーマは「働く人のための皮膚科心身症」としました。このテーマを設定した背景には、私が心身医学の研修を受けた中部労災病院心療内科に勤労者メンタルヘルスセンターが併設されており、職場ストレスによる心身症を多くみさせていただいたことにあります。それが現在の臨床につながっていることから、今回のテーマを選定しました。

日常の診療において、皮膚科疾患全般において患者が休業・復職に困るケースも多く経験します。皮膚科心身症の経験が少ない若手の先生にも興味をもっていただけるようなプログラムを企画しました。

プログラム

最初の企画である教育講演1は皮膚科心身症に精通した3人の会員の先生にバーチャルケーススタディとして症例提示をしていただきました。そのねらいとして実際の症例を供覧することにより、心身症の診療を始める先生に臨場感をもって捉えてもらいたいということがありました。症例提示の後に産業医である石川浩二先生(三菱重工株式会社)から実際の対応や臨床医との関わり合いについてご講演いただきました。

特別講演1は私の恩師である芦原 睦先生(芦原内科・心療内科)に「自分発見と豊かな対人関係 患

者さんとの円滑なコミュニケーション」をテーマに、交流分析についてご講演いただきました。エゴグラムの実習を交えながら、笑いの絶えない臨床に役立つ講演でした。

教育講演2は羽白 誠先生に「心身症と免疫反応」をテーマに皮膚科心身症の研究と臨床の両面についてご講演いただきました。まさに学会事業そのものを体現するような講演でした。

特別講演2は精神科医である山田尚登先生(上林記念病院)をお迎えし、「時間生物学と心身の病」について講演していただきました。先生のご専門である睡眠と皮膚疾患の関連について、たいへんわかりやすいご説明をいただきました。一般演題は4演題の発表をしていただきました。臨床研究と症例報告の両面からの発表があり、活発な討議および意見交換がなされました。また、3つのスポンサードセミナーを企画いただき、いずれも新しい発見ができる機会となりました。

おわりに

このような学会企画・運営を行うことは初めてでしたが、無事に開催することができました。開催に際し、多くの企業様ならびに学会本部よりご協賛いただきましたこと、深くお礼申し上げます。また、座長・演者の先生方、大会の運営に携わってくださった方々、そして藤田医科大学の教職員の皆様の献身的な努力に、心からの感謝を表します。